

うんせんし はっくつちょうさ そくほう だい ごう
雲仙市発掘調査速報 (第2号) 2010. 03



このシンボルマークは、ひろげた
両方の手のひらのパターンによって、
日本建築の重要な要素である斗供
(組みもの)のイメージを表わし、
これを三つ重ねることにより、文化
財という民族の遺産を過去、現在、
未来にわたり永遠に伝承していくと
いう愛護精神を象徴したものです。

しどうあづまひらこばせんかいりょうこうじかんれん
市道吾妻平木場線改良工事関連

もり やま おお つか こ ふん はっ くつちょうさ **守山大塚古墳の発掘調査**

けんないさいこせんぼうこうえんふん
-県内最古の前方後円墳-



もりやまおおつか こ ふん まるつか こ ふん
(守山大塚古墳と丸塚古墳)

ながさきけんうんせんしきょういくいいんかい
長崎県雲仙市教育委員会

★★★発刊にあたって★★★

○本冊子は雲仙市吾妻町所在の守山大塚古墳発掘調査に関する簡易な解説を目的としています。
○内容は市道吾妻平木場線改良工事に伴い平成20年度及び21年度に行った発掘調査の成果です。
○本冊子に関するお問い合わせは雲仙市教育委員会までお願いします。

守山大塚古墳発掘の理由

★雲仙市には百花台遺跡などのたくさんの遺跡があります。「遺跡」とは、私達の祖先が暮らしていた当時の、住居跡や生活用具（土器や石器）およびお墓などが発見される場所です。すなわち「私達の祖先が暮らした痕跡が残されている場所」のことです。この「遺跡」から発見された「土器・石器・住居跡・お墓」などは、私達の祖先の歴史そのもので、ひいては現在まで生きている私達の歴史でもあります。発掘調査を行うと私達がどのような歴史をたどって現代まで生き抜いてきたかがわかります。このような「遺跡」は大切な歴史遺産であり、私達みんなの財産といえるでしょう。雲仙市では「遺跡」が存在する場所で、しばしば開発工事が行われます。今回の守山大塚古墳の調査は、市道改良工事によって遺跡の一部が消滅してしまうため、その部分の調査を行って、私達の財産である「遺跡」の内容を記録する発掘調査を行いました。したがって、工事を行っても遺跡が消滅しない部分については、現地にそのまま遺跡が残っています。発掘調査を行った部分は古墳全体の数%であり、まだまだたくさんの祖先の歴史が地中に保存されているのです。

発掘調査の基本

★右の写真は、遺跡の土層断面です。色の違う土が何枚も重なっているのがわかります。土の色は、堆積した時代によって異なり、発掘調査はこの色の違う土層ごとに調査を行います。この土層は、下のものほど古く、上の土層になるにつれ新しくなる特徴があります。したがって、それぞれの土層に含まれる土器・石器・住居跡の時代の古い・新しいの判断は、土層の重なりをみれば一目瞭然です。



国見町龍王遺跡



国見町百花台遺跡周辺

★左の写真は古墳時代の「堀」の調査の様子です。深さ約1m、幅約2mの堀の中にたくさんの土器が発見されました。これらは使用しなくなったものを捨てたものと考えられます。堀の底には50cmほど泥がたまり、その上部で土器が見つかっています。「堀」は泥がたまって浅くなれば役に立ちません。したがって「堀」が必要なくなり、その後土器も必要なくなり捨てられたと考えられます。土の重なりや土器の出土状況でその遺跡がどのような歴史をたどってきたかが判ります。

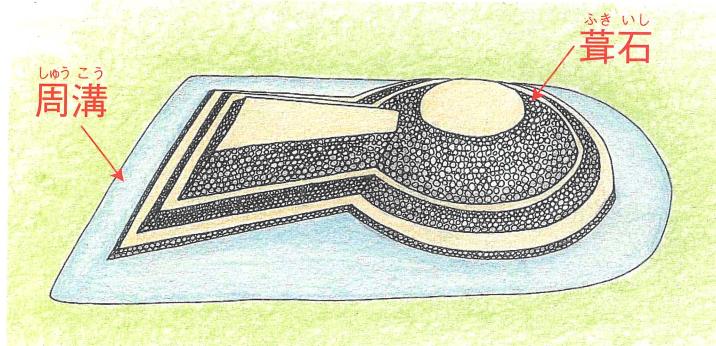
はっくつちょうさ ようす 発掘調査の様子



葺石とは…古墳の墳丘の上に並べられた石のこと。石を並べることによって遠くから見ても古墳が目立つ。

周溝とは…古墳の周囲の「堀」のこと。墳丘と周辺を区画するために掘られている。掘った土を盛って古墳を造ることもある。

★守山大塚古墳の調査は、平成21年6月に行われました。目的は、古墳に関連する葺石・周溝などの遺構や、土器などの遺物を確認することでした。守山大塚古墳は、上から見ると立派な前方後円墳であることが分かります。現在、墳丘上は現代のお墓がたくさん作られています。これまで、古墳内の埋葬施設などの調査は行われておらず、詳しいことはあまり分かっていませんでした。



ぜんぱうこうえんふん 前方後円墳のイメージ

守山大塚古墳データ

全長→現存で66m

前方部→幅15m、高さ2.5m

後円部→直径45m、高さ7.2m

主軸方位→北東

(平成2年の長崎県学芸文化課の測量結果)

長崎県内の古墳の大きさベスト3

1、双六古墳 壱岐市勝本町

(全長90m、古墳時代後期の前方後円墳)

2、守山大塚古墳 雲仙市吾妻町

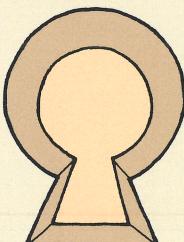
3、ひさご塚古墳 東彼杵郡東彼杵町

(全長58.8m、古墳時代前期の前方後円墳)

★豆知識1★ 古墳の時期別特徴

前期

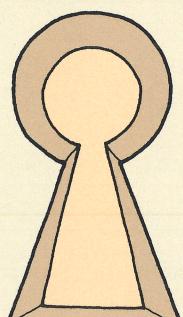
3世紀終末



- 葦石を持つ
- 鏡・玉・刀などの副葬品を持つものが多い
- 竪穴式石室

中期

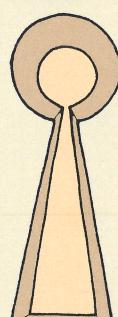
4世紀～5世紀



- 前方後円墳の巨大化
- 馬形埴輪や人物埴輪の登場
- 須恵器の登場
- 横穴式石室

後期

6世紀



- 石室に装飾をした装飾古墳が全国的に広がる
- 大型前方後円墳の規模縮小

こふんじだいさいせいき
古墳時代の最盛期

★調査について

① 豊石を検出しました。写真を見ると、石がきれいには並んでいません。古墳から崩れ落ちて、周溝に溜まっている状況であることが考えられます。豊石は全て人の頭くらいの大きさで、矢印の部分の石の下からは、3つ分の壺の破片が出土しました。



1



2

② 周溝が見つかりました。一番深いところには、豊石と同じ大きさの石が集められており、その石の上に高壙の脚部分が置かれている様な状態で出土しました。何のために石を集めただのでしょうか。

③ 崩れている豊石より一回り大きい豊石が並んでいる様子(★)を検出しました。古墳の基礎部分で、それより上は削られなくなっていました。崩れた豊石の間からは、小型丸底土器が出土しました。

④ 石垣のように並んで積まれている状況が確認できました。崩れている豊石の下からは、二重口縁壺が出土しました。ここでは豊石基礎が2段残っていました。現在の古墳の石垣の内部にも豊石が残っている部分があると考えられます。

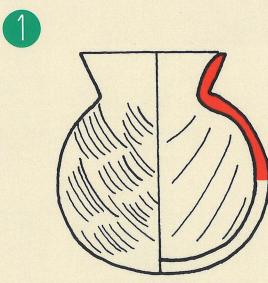


3

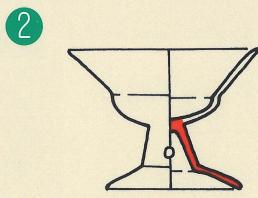


4

★豆知識2★ 上の写真で出てきた土器の紹介



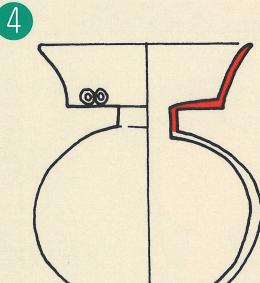
ひろくちつぼ：外側にハケで、うちがわ
内側には土を削り取りと
整えている。



たかつき
高壙：お祭りなどでの
お供えものを乗せる
ための土器。



こがたまるぞこどき
小型丸底土器：
①の様な壺を小さく作ったもの。



にじゅうこうえんつぼ
二重口縁壺：口縁部に目玉
の様な装飾が付いてます。

★墨書土器

平成20年度の試掘調査では、くずれた葺石のすぐ上の土層から、奈良時代の墨書土器が出土しました。写真を見て分かるように、底の部分に「井」の文字が墨で書かれています。長崎県内の墨書土器の出土例は10例にも満たないほどしか報告されていません。主に、壱岐市や雲仙市国見町で出土しています。

「井」の文字が書かれているものは、全国的に見つかっていますが、意味などははっきりと分かっていません。墨書土器は主に、『郡衙』と呼ばれる古代の役所などで使われていたことが分かっています。



発見された墨書土器

★現地説明会

発掘調査が終了した後には、地域の皆さんに遺跡のことを知つてもらうために現地説明会を行います。どんな調査を行い、どんな成果を得ることができたのかを報告します。実際に調査をした現場に入つてみたり、出土したばかりの土器や石器を見ることができます。



葺石説明風景



調査員による説明



横から見た守山大塚古墳（田内川より）

★調査終了

現場が終わると、埋め戻しを行います。今回、葺石が並んでいた部分については、きれいに土をかぶせて保存をしています。そのままでは風雨で崩れてしましますし、貴重な歴史遺産を未来へ残すためには、これまで通り、土の中での保存が最も適しています。そして、またいつか調査する機会が来た時、さらにくわしい調査が行えるように、そのままの状態を保つためです。

そして、調査で出た遺物を事務所に持ち帰り、今度は整理作業へと入ります。

「整理作業の流れ」は7ページ



慎重に埋め戻します

ちょうさ せいか 調査の成果

こんかい はっくつちょうさ もりやまおおつか こふん あら わ
★今回の発掘調査により、守山大塚古墳のいろいろなことが新たに分かりました。

①古墳の大きさの解明：後円部側の円に沿った形で葺石(矢印)が並んでいる状況を確認することができました。これにより、今見えている後円の部分がさらに外側に約2.5メートル大きくなります。



③守山大塚古墳の前後の時代：平成20年度
の守山大塚古墳の調査では、古墳が造られる前の弥生時代の終わり頃に使われていた土器の破片がたくさん出土しました。そして、後の時代の奈良時代の墨書土器も出土しています。守山大塚古墳の周辺は、弥生土器を使い生活していた人々→前方後円墳を造った人々→墨書土器を使っていた人々…と時代の流れが続いていることも分かりました。その後の中世（鎌倉時代頃）の遺物も確認されています。

②古墳の時期の解明：下の写真を見ると、くずれた葺石の下から土器が出土しています。この土器は、かつて古墳の上に並べられており、その後、時間が経って古墳から崩れ落ち、さらに後になって葺石がくずれて埋まったようです。このことから、これらの土器は古墳が造られた時期にかなり近いものであることが考えられます。そしてこの土器は古墳時代前期の特徴を持っています。したがって、守山大塚古墳は古墳時代前期にはすでに造られていた可能性が高いと予想されます。



★この成果から、「守山大塚古墳は、長崎県内では最も古く、この時期のものでは最も大きい前方後円墳」であることが分かりました。しかし、削られている前方部分の大きさや、古墳の謎を解くために重要な古墳内部の埋葬施設の様子など、解明しなければならないことはまだたくさん残っています。雲仙市では、これからも機会があれば、調査を行い、現地説明会や資料館での展示などで皆さんに報告をしていきます。

はつくつちょうさ
「発掘調査をして終わり」じゃないよ。

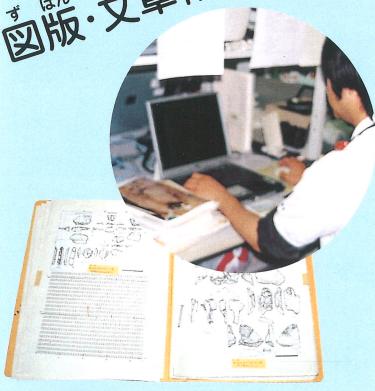
スタート

はつくつちょうさ
発掘調査を行う



整理作業の流れ

すはん
図版・文章作成



しゃしんさつえい
写真撮影



トレース



いぶつ
遺物の洗浄



しつど
どこから出土したのか
迷子にならないように
するんだね

ナンバリング



IKO・D2・Xb・No1393

伊古遺跡・D2区・Xb層出土・遺物番号1393

ゴール!!

ほうこくしょかんせい
報告書完成



そのあとに…
てんじこうかい
展示・公開



みんなに
みて
ほしいな

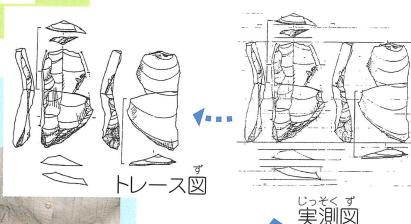


じっそく
実測

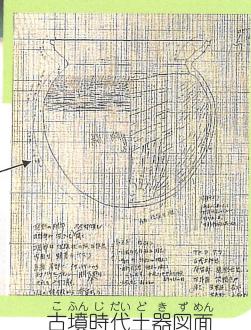


え
絵に
するんだね

ペンでかくと
くつきりみえるね



こあんじだいどきししゃん
古墳時代土器写真



こあんじだいどきししゃん
古墳時代土器図面

雲仙市管内図

平成十七年十月

